

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	陳 情 第 4 4 号	
件 名	B R T計画を白紙撤回して，現在運行中の連節バスをやめて普通バスに切りかえ，今後の新たな連節バス購入・導入をやめて新潟市の1兆円の借金を減らすことを求めることについて	
要 旨	<p>9月5日に開業したB R T計画新バスシステムは，トラブル続きの幕あけとなってしまい，政令市新潟として不名誉な結果となりました。</p> <p>開業3カ月の経過を見るに，定時制，速達性，利便性，経済性，さらに交通事故多発で安全性も確保できず，今後何をしてもこれまでどおり費用対効果は全てマイナスとなることが予想されます。</p> <p>B R Tの賛否を問う住民投票推進グループでの11月24日，火曜日に行った連節バスの乗車人員調査結果は以下です。</p> <p>①新潟駅発，連節バス全28便，全乗車人員422人，1便当たり15.07人。</p> <p>②各便の中での最大乗車人員は40人ほど，快速バスは空気を運ぶバスかな。</p> <p>(参考) 最大乗車人員，連節バス115人，一般バス63人。</p> <p>この結果，連節バスの必要性がないことが数字で証明されています。</p> <p>視点を変えて，新潟市には1兆円もの借金があります。利息抜きで考えて，毎年100億円返したとして100年もかかる，返せる保証がないとも思われる莫大な借金です。</p> <p>開業したB R T計画新バスシステムは，連節バスに頼らず普通バスの運行で十分に機能を果たせます。</p> <p style="text-align: right;">(裏面につづく)</p>	
付 託 年月日 委員会	平成27年12月7日	第1項 } 環境建設常任委員会 第4項
受 理	平成27年12月2日	第535号

昨年 11 月の市長選挙では、B R T 白紙撤回候補と B R T 中止候補が 64% の得票を得た民意が示されています。

なおかつ、新潟交通係員の停留所での説明でも運転手が行う車椅子乗客の乗りおり介護には 5 分から 6 分くらいを要することからも、B R T がバス高速輸送システムの名称に値しないことがわかりました。

よって議会に以下を求める陳情をします。

記

- 1 現状の連節バスの使用をやめて普通バスだけの運行にすること。
- 2 今後さらに連節バスを購入，導入することなく現状のまま新バスシステムを進め，新潟市の借金を減らす努力をすること。
- 3 普通バスの運行で，今後萬代橋と東大通の中央分離帯を撤去するなどして，専用レーン工事や道路改良工事を行わず，税金の無駄遣いをしないこと。
- 4 B R T バス高速輸送システムの名称をやめて，ただの萬代橋ラインとすること。